平成28年度　学校評価総括表　　伊丹市立北中学校

教育目標	夢を持ち意欲的に生きる生徒の育成　―　自分に自信を　学校に誇りを　―
重点目標	（1）授業改善を常時行い、「授業がわかりやすい」と答える生徒を増加させる。 （2）魅力ある学校づくりに努め、不登校生0をめざす。 （3）教育相談を充実させ、何でも言える関係づくりに努める。 （4）生徒が主体的かつ積極的に取り組める活動を計画・実施する。 （5）「報・連・相」の重要性を全職員が認識し、風通しの良い職場づくりを行う。

項目			重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	生徒	保護者	職員
学力の向上	1	基礎・基本の徹底と授業改善	・基礎的基本的な知識・技能を習得する。 ・自学力の育成を図る。	・SAKURAプロジェクトに取り組み自学自習する力をつける。 ・SAKURAプロジェクトを職員に周知徹底する。	・優秀なSAKURAノートを掲示する等、啓発活動を盛んに行う。 ・SAKURAタイムでの学習内容を明確にする。	B	・アンケート結果として生徒、保護者の評価が上がっている。 しかし、生徒の実態と合っているかが確認できない。 ・SAKURAプロジェクト、家庭学習についての教師の意識は高いが、SAKURAタイムでの学習内容が明確でない。	・SAJKURAプロジェクトの推進を継続し、SAKURAタイムでの学習内容を明確にする。 ・連絡帳を回収して学習計画・評価の項目を確認し、家庭学習を励行する。	・家庭学習の習慣化ができるように、家庭と学校が連携して取り組めればと思う。 ・SAKURAタイムの学習の重要性が理解できると効果が上がると思う。	⑥⑲	⑥⑰	④ ⑩
	2		・授業研究を行い、指導方法の工夫改善をする。	・「わかる楽しさがある授業」づくりに努め、学力や体力の向上をはかる。 ・1人1回協同学習を取り入れた公開授業を行う。	・アンケートで「先生は教え方にいろいろと工夫している」と肯定的に回答する生徒を80％以上にする。 ・全ての教員が年1回以上の授業公開を行う。 ・「授業中、自分の質問や意見を出しやすい」と肯定的に回答する生徒を70％以上にする。	B	・授業を工夫していると感じる生徒は去年同様80％を超えているが、「分かりやすい」と回答している生徒は去年と比較して1割ほど減少している。 ・「授業中、自分の疑問や意見を出しやすい。」と感じている生徒は55%程度で目標に達していない。	・本時のめあての提示、ふり返りを徹底し何ができていればよいか、何がわかればよいかを明確にし、達成感を味わえるような授業を行う。 ・ICT機器やシンキングツールなどを利用して視覚的に分かりやすくしたり、協同学習を取り入れて生徒が主体的に学習するような授業展開にしたりして、わかる楽しさのある授業づくりをしていく。	・生徒の疑問点がその場で解決できるように、普段からコミュニケーション力を高めて、先生との信頼関係を深めればと思う。 ・何がわかればよいかを明確にし、達成感を味わえるような授業を行うことは大事だと思う。	③⑤ ⑮⑲	⑬	⑤ ⑥ ⑦ ⑧
	3	思考力・判断力・表現力の育成	・言語活動の充実	・ブックトークなどの本の紹介を行い、読書に対する意欲を高める。（ビブリオバトルなど） ・年度初めに図書室を利用した授業を行う。 ・コミュニケーショントレーニングやNIEの活用により、思考力、判断力、表現力の育成を図る。	・各クラスの読書量調査で月平均5冊以上にする。 ・貸出し冊数を年間7000冊以上にする。 ・適宜ふり返りを行う。	B	・読書に親しんでいると感じる生徒は昨年同様63%程度である。 ・委員会での呼びかけやSAKURAグランプリの実施を通して、目標の周知と月平均5冊が達成されつつある。 ただし、月平均が貸出冊数0のクラスもある。 ・一部ライトノベル等の配架を縮小したため、今まで貸し出しの多かった本が貸出可となり、貸出冊数減少に影響している。 ・各学年適宜ふり返りを行っている。 ・紙面での交流に留まり、生徒同士のコミュニケーションに至っていない。	・読書量調査の集約結果を委員からクラスに伝達させる。 ・貸出冊数や読書量などのグラフを今までの月ごとに加え学期のまとめを作る。 ・引き続き目標の周知徹底をする。 ・本年度、図書室を本館に移動し、例年よく図書室を利用する1年生の北館から一番遠いところになってしまったことも貸出冊数の減少につながったのではないか。来年度より給食が始まり昼休みの過ごし方が変わるので、貸出冊数の年間目標については見直しが必要である。 ・紙に書く形式から話す聞く形式を追加する。	・国語力はすべての教科に共通して必要な力になるので、読書習慣をつけたり、クラスで一つの本についてディスカッションしたり、思考力が身につけられればと思う。 ・ビブリオバトル等で表現力、コミュニケーション能力を養うことは重要だと思う。	④㉑	⑤	⑨
	4	特別支援教育の推進と充実	・支援体制を整える。 ・特別支援教育の内容を充実する。	・全学級、全教科において個別の指導計画に沿った支援ができる体制を整える。 ・特別支援教育についての研修の場をつくる。 ・個別の指導計画を作成し、教育的ニーズに応じた指導を行う。	・外部の相談機関と連携し、支援についての研修を行い、生徒のニーズに応じた支援をする。 ・支援学級担任、交流学級担任、教科担任の連携をより密に行い、情報交換の場をつくる。 ・生徒一人ひとりの個別の指導計画を充実させ、全職員が情報を共有する。	B	・対象生徒の個別の指導計画を1学期から担任が作成することができた。 ・交流の機会を保障することができた。 ・学年会での情報共有ができた。 ・コンサルテーションを定期的に開き、担任とフィードバックすることができた。 ・コンサルテーションが必要とされる生徒には実施することができた。	・コンサルテーションのフィードバックを担任だけでなく、教科担任にも広める。 ・板書の仕方やノートのとらせ方など、共通して取り組める具体的な手立てを設定し、年間を通して実施する。	・特別支援教育に関して熱心に研修されていると思うので、小中学校での連携も大切に引き続き取り組んでもらえればと思う。			㉑ ㉒ ㉓
	5	社会への対応力をはぐぐむ教育の推進	・系統的な進路指導を行う。 1年　自己を見つめ、適性を知る。 2年　職業体験 3年　自己実現するための進路選択	・中学3年間を見据えた進路指導を行う。 1年　社会人としてのルールやマナーを学ばせる。 2年　トライやる・ウィークを通し、働くことの大切さを知り、将来の職業を見据えた進路について考えさせる。 3年　オープンハイスクールなどを利用して、本人の興味・関心や適性に基づいた進路選択をさせる。	・キャリア学習ノートやプリントを活用し，自分の将来について考えさせる時間を確保する。 ・進路に関する情報を適切な時期に提供する。	B	・キャリア学習ノートやプリントを活用し、自分の将来について考えさせる時間を確保することができた。 ・進路に関する情報を適切な時期に提供することができた。	・キャリア学習ノートをより効果的に活用するために使用する時期を再考する。 ・3年間を見通した進路指導を家庭と協力して行う。	・3年生になって急に進路について教えるのではなく、1年生から系統的な進路指導が行われているのがよいと思う。自分の将来を3年生になったら、しっかり考えられるようになれたらと思う。 ・2年生後半から3年生前半で進路について考える時間が多くあればよいと思う。	⑪	⑭	⑯
	6	問題行動への対応（生徒指導）	・組織的な生徒指導を行う。	・問題行動に対しては、学年教師間や学校全体での共通理解を図って対応する。 ・定期的に生徒指導部会と教育相談部会を開催し、教師間の共通理解を図る。 ・巡回での不備は確認用紙に必ず記入し、担任に報告する。 ・個別の教育相談やアンケートによる情報収集を行い、問題行動の未然防止に努める。	・毎週1回、生徒指導部会と教育相談部会を開催する。 ・問題行動に対しての「報・連・相」をチャート図に従って確実に行う。 ・収集した情報をもとに丁寧に対応する。	B	・部会で各学年の状況や個別の生徒の状況を共有することができた。 ・報、連、相がまだ十分ではない。 ・個別の教育相談や月に一度のみんなの声や仲間作りアンケートの結果を踏まえ、個別に気になる生徒の情報を収集し、その問題の解決に向けて対応した。	・学年内の情報共有をしっかりするために、一人一人が問題行動に対する当事者であるという意識を持つ。 ・指示を明確にする。	・校外で起きた問題行動等にも迅速に先生方が対応してくださっていると思うので、これからも家庭・学校・地域の連携をしっかりとっていければと思う。 ・教師アンケートの結果から、組織的な対応について、不安があるように思う。	⑨	⑦	⑫ ㊳
	7	不登校への対応	・教育相談やQUを活用し、生徒理解をすすめる。 ・あらゆる教育活動を通して、不登校生徒数の減少を目指す。	・教育相談やQUの結果を教師間で共有し、個々の生徒に対し効果的な対応を行う。 ・学校教育活動の中で生徒の変化を見逃すことなく初期対応に努める。 ・家庭環境を考慮し、関係機関、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図る。・朝の打ち合わせ時にも気になる生徒の情報を交換する。	・生徒アンケートの「先生は相談にのってくれる」の肯定的回答を全学年80%以上にする。 ・生徒アンケートの「学校で自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」の肯定的回答を全学年80%以上にする。 ・不登校生の数が前年比を上回らないようにする。	B	・「先生は相談にのってくれる」という項目について、2年生の肯定的な回答の数値が低い。 ・教育相談週間やQUの活用に力を入れており、その成果が出てきている。　・道徳教育の充実に力を入れたり、学級・学年経営をきめ細やかに行う努力をすることで、思いやりの心が育ちつつある。 ・前年度、年間30日以上の欠席があった生徒も、長期にわたって欠席が続くということが少なくなっている。全学年とも、不登校生の状況は改善しつつある。	・教育相談の持ち方を考え、生徒が相談しやすい雰囲気をつくり、相談の機会を増やす。 ・年2回のQUを教育相談や日々の教育活動に生かす。 ・QUの活用の仕方についての研修会を開いたり、教師同士が相談しあうなど、引き続き研鑽を重ねていく。　・道徳の授業や日々の生活の中で、周りの人への思いやりの心や、自尊感情を育む機会を増やす。 ・不登校生をなくしていくために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーともさらに連携を深める。 ・不登校を減らすため、学級や学年・学校全体で、情報を交換し初期対応をしっかりと行う。 ・エコマップを活用し、小・中の連携をはかり、学年・学校全体で情報の共有をはかり、速やかに対応していく。	・学校全体で不登校生徒を減らす取り組みに力を入れていて、結果も現れてきているので、今年度同様、更に心の教育に力を入れていただければと思う。 ・難しい問題だと思うが、教師間や家庭との相談しやすい関係を作ってほしい。	⑦⑩	⑮	⑬ ⑭ ⑮ ㊲

豊かな心・健やかな体	8	健康教育	・規則正しい生活習慣を身につけ、健康管理能力を育成する。	・欠席調査を適切に行うとともに学級指導や保健だより等で健康に関する意識を高める。 ・教職員間で共通理解を図るとともに必要に応じて保護者との連携も密に図る。 ・平成29年度の給食導入に向けて現在保健委員会で担当している牛乳パックの返却や手洗い石けんの補充に関して生徒を主体とした委員会活動の徹底を図る。	・欠席調査にて欠席理由が不明な生徒については、学年間で共通理解を図り、速やかに保護者に連絡して状況の把握を行う。 ・生徒アンケート80%以上 ・牛乳給食返却遅れ0を目指す。 ・保健委員長を中心に石けん点検をシステム化するなど保健委員会全体で取り組む体制を築き活動する。	B	・目標の生徒アンケート80%以上(A+B)は達成できなかったが、昨年度の反省より委員会活動で、「健康についての呼びかけ週間」を設定し、保健委員による呼びかけや担任によるミニ保健指導などの取り組みを行うことはできた。 ・石けん点検については、まだうまく稼働できていない部分もあるが、保健委員長を中心とした全体で取り組むシステムを築くことはできた。次年度、給食が開始されるため、環境を整え、手洗いなどさらに衛生管理に対する意識を高めていく必要がある。	・委員会編成が変更されるため、現保健委員会での取り組み内容が、保体委員会と給食委員会それぞれの委員会へとうまく移行していくことができるよう、まず、教職員が中心となって委員会活動の土台作りを行い、早期に生徒を中心とした委員会活動へとつなげていく。	・学校から配布される保健だよりに、家庭でも気をつけるべき事等、大切な情報がぎっしり詰まっているので、生徒にも保護者にもしっかり読んでもらえるように働きかけがあればと思う。 ・家庭での生活習慣が基本であると思うので、保護者と連携をとることが必要ではないか。	⑭	⑪	⑲ ⑳
	9	安全教育	・安全指導の工夫改善をする。	・交通マナーとルールを守る意識を高めるための外部機関による啓発を行う。 ・不定期に登下校の様子を確認するなどで、登下校指導を充実させ、通学路違反を未然に防ぐ。	・交通マナーとルールを守る意識を高める。	B	・通学路とバス道の交差点での登下校指導を実施したことで、自転車通学生の一時停止、徒歩横断の指導が行えた。 しかし、まだ100%ではないので継続指導が必要である。	・不定期の登下校指導を年間30会以上実施し、さらなる充実と、毎日部活動終了後、各部顧問の教職員の協力により、下校指導の充実を図る。 ・毎年中学1年生を対象に自転車講習会を2学期に実施するなど外部機関による啓発をより充実させる。 ・定期的に毎学期1回ずつの登下校指導を継続して行う。	・自転車通学のマナーや徒歩でも道路いっぱいに広がらない等基本的なルールの指導を、家庭と学校が連携して行うことができればと思う。	⑬	⑩	⑱
	10		・安全・安心の場を創造する。	・避難訓練の事前学習の共通理解をもっと行う。(助け合いなどの教材) ・朝礼や終礼または集会での注意喚起。(走らない、暴れない) ・ろう下等の整美の徹底を呼びかける。 ・防災設備の使い方を教職員で共通理解する。	・生徒アンケート　70%以上 保護者アンケート　70%以上 職員アンケート　70%以上	B	・道徳の授業の影響があったからか、生徒アンケート⑦⑧の評価が上がった。 ・保護者アンケート⑩のA評価が少し上がった。交通マナーについてのことが多くを占めていると考えられる。 ・教職員アンケート⑰が80%に満たなかった。	・教室でのマニュアルの指示や教職員のみでの防災訓練や研修を行う。 ・委員会を活用し、4月に掲示物を作成する。	・道徳の授業に今年度力を入れられていた成果が見られると思う。 ・日頃の防災訓練の成果で、実際に鳥取地震発生時の避難が見事でした。	⑦⑧ ⑫	⑨⑩	⑰ ⑱
	11	豊かな心を育む教育の推進	・健全な心の育成をする。	・「ココロを育む授業」を行う。(2学期) 「冒険教育」(1年) 「リレーションを深める集団づくり」(2年) 「心の健康教育」(3年) を実施する。 ・道徳教育の充実	・生徒アンケート⑦⑰　80%以上 教職員アンケート㉚　90%以上 ・道徳の教科科に向けて教材解釈や授業の組み立て方について、研修を積極的に行う。 ・全教員でローテーション授業を行う。	C	・教職員アンケート㉚　90%以上という目標は達成できなかった。 ・生徒アンケートでは各学年昨年度より評価が上がっており、目標を達成できた。 ・教材解釈や指導案の書き方について、他の教員と相談しながら取り組め、授業に対する意識が高まった。	・教職員アンケートが目標を達成できなかった原因として「生徒の成長段階を意識」という点にあるのではないかと考えられる。 ・生徒アンケートでは改善できているので、「ココロを育む授業」が形式的なものにならないように、生徒の実態に即した内容になるように毎年検討する必要がある。 ・全体計画や3年間を見通した年間計画の見直しをする。 ・評価についても研修を行う。	・学年に適した心の教育が行われたと思う。 ・毎年、その学年によってのカラーもあるので、実態に合った取り組みの見極めが大切だと思う。 ・「ココロを育む授業」が形式的なものにならないように、生徒の実態に即した内容になるように毎年検討することは、大変重要だと思う。	⑦⑯		㉚
開かれ信頼される学校園	12	学校情報の発信	・学校(授業)公開をする。	・学校通信や学年通信が発行される度にホームページの更新を行う。 ・土曜参観、オープンスクールなど学校公開を積極的に行う。 ・サクラメールをより積極的に活用する。	・学校だより、学年通信などで生徒の活動時の写真や感想文などを毎月掲載する。 ・毎学期授業参観またはオープンスクールを行う。 ・ホームページの閲覧者数の確認ができるよう日々のカウンターを記録する。	B	・ホームページが新設され、誰でも更新できるようになったが、更新回数はあまり変わらなかった。(学年で差が出た。) ・学校公開は毎学期行えている。 ・週に一度は更新する。 ・学校通信や学年通信を定期的に発行し、広く情報公開している。	・定期的に研修会を行い、その中でホームページ更新を共有して行う。 ・学校公開は、毎学期行えているので、引き続き行う。	学校通信や学年通信がまめに発行されているので、情報発信の働きかけがされているのを家庭の方がしっかり受け止めていけるように、PTA役員もパイプ役として力になれればと思う。 ・合唱コンクールで、一生懸命な様子がわかった。		⑪⑭	㉛ ㉜ ㉝
	13	施設・設備の管理	・施設・設備の管理。 ・清掃活動の充実	・安全点検を定期的に行い、適切迅速に修理・修繕をする。(依頼する。) ・そうじの一人一役を徹底させる。 ・整美委員会で掃除道具の管理(補充)を行う。 ・壊れた掃除道具の修理。	・毎月、安全点検を行う。 ・安全点検の結果をまとめ、修理や修繕を実行又は依頼する。 ・整美委員会で掃除道具の点検を行い、壊れている物を修理し、丁寧に扱うように指導徹底する。	B	係、教職員側の呼びかけに対して生徒や教職員の自覚が高まった。	・壊れた清掃道具を教職員も含めて自分たちで修理し、管理できる機会を設ける。 ・さらに、個々の意識を高め、明確なルールを設定したい。	清掃活動は一生懸命されているので、道具や施設を大切にする精神を今以上に育めたらと思う。 ・学校のイメージをよくすることは重要だと思う。よく意識されていると思う。	⑰⑱	⑨	㉟ ㊱

学校関係者評価総括

・自己実現のための教育をきっかけに、学力向上につなげることが何より生徒たちにやる気を起こさせると思う。
・教師アンケートの結果より、各先生方が個人では何事にも努力されていることが読み取れるが、組織的には充実できていないと感じているように思う。
・生徒アンケートの結果より、No.5，6においてCの数が多いことが気になる。
・全体的にどの課題についても、学校だけが頑張っても改善されるものでもないので、家庭・学校・地域の連携が図れる仕組みが必要だと思う。
・年々少しずつ改善されてきて、先生方と保護者、先生方と生徒間のコミュニケーションが取りやすい雰囲気になってきていると思うので、引き続きそういう環境を整えていければと思う。

次年度に向けた重点的な改善点

・豊かな心を育む教育の推進についても、自己評価B以上を目指すこと。
・保護者アンケートで意見があがっていた「1・2年生の時に二者懇談があれば」という意見が実現されれば、保護者が直接相談したり意見を伝えたりできて、より連携がとれるようになっていくのではと思う。

自己評価の基準　**A**:目標を上回った　**B**:目標どおりに達成できた　**C**:目標をやや下回った　**D**:目標を大きく下回った